教育新聞 愛知県版

教育新聞愛知県版
発行所
名古屋支局
支局長　松山基紀　☎052－835－8847
〒466－0842　名古屋市昭和区檀溪通5－28－303
尾張支局
支局長　荒木弘一　☎0567－52－3877
〒490－1428　弥富市竹田1－61－2
西三河支局
支局長　加藤政幸　☎0564－53－2739
〒444－0826　岡崎市若松町大廻3－11
東三河支局
支局長　中村則夫　☎0532－75－8455
〒440－0888　豊橋市駅前大通3－55－902

英語イマージョン教育スタート

主要教科実施は公立初

豊橋・八町小

本年度、豊橋市立八町小学校において公立小学校としては全国初となるイマージョン教育がスタートした。イマージョン教育とは、従来の英語授業のように文法を教え込むのではなく英語を毎日シャワーを浴びるように聞き、使っていこうという実践的な学習法で、「英語漬け授業」とも言われている。基礎学力を低下させないようにしながら、英語のコミュニケーション能力を磨き、グローバル人材の育成につなげることを目的としている。本年度、小学校英語が教科化される中で、新しい教育方法として注目されている。

2月実施「3年算数イマージョン授業」

八町小では、国語、道徳以外の教科を英語で学ぶイマージョン教育のスタートに先立ち、昨年6月より「イマージョン教育コース」を選択した20人の児童を対象とした3年生算数の授業を先行実施した。9月の公開授業では、ALTと日本人教員が指導者となり、日本語の教科書を使ってほぼ英語で3桁の筆算の引き算、足し算を教えた。

「Stand up」「Hello,everyone」から授業が始まった。子供たちは歌などで数字を英語で声に出した後、繰り下がり、繰り上がりを勉強した。3桁の引き算の授業を「borrow」(上の位から1を借りてくる)「carry」(上の位に1繰り上げる)」といった英語のみで進めた。日本人教員が中心となり、英語を用いて教科等の内容や子供の現状に応じて授業を進めたり、ALTが「good」「nice」など英語で助言したりした。授業の中で、耳から覚えた英語を、間違いを恐れずに積極的に使うよう促す様子が見られた。子供からは、「難しいところはあるけど、分かりやすく教えてくれ、授業が楽しい」との声があった。

◇　◇　◇

豊橋市内には、1万9000人を超える外国人が居住している。国際理解や国際交流の必要性が高まる中、子供たちにも「共生の心」の育成が求められている。

平成17年度の「英語推進特区」認定以来育まれてきた「英会話のできる豊橋っ子育成プラン」を基盤として、八町小では、「英語のコミュニケーション力を自分の長所として生かし、グローバル社会で活躍することができる子」の育成を目指してきた。

八町小イマージョン教育コースでは、国語と道徳以外の教科・領域を英語を用いて学び、英語に浸りきった状態で教科等の内容や子供たちの英語力等に応じて、授業で使用する英語量や授業方法を適切かつ柔軟に取り組んでいる。そのためには、子供一人一人の学習を支える環境を整えることが必要である。「環境」とは、子供を取り巻くすべてを示す。人的支援であるNET（Native English Teacher）を取り入れた教室環境整備はもちろん、NETとの授業内外での関わり、具体物操作を伴う学習活動など、子供が八町小イマージョン教育コースで目にし、耳にし、触れるものすべてにおいて英語に浸かることにより、子供が英語でのコミュニケーションを楽しみ、学習の原動力となる「楽しい」という喜びを実感できるようにすることを大切にしている。

◇　◇　◇

豊橋市が八町小でのイマージョン教育に力を入れる理由の一つは、特色ある学校づくりを推進する市の教育施策によるものである。英語教育に特色を出し、希望すれば市内全域から通学できる4校目の特認校として位置付けている。

令和2年度　春の叙勲

教育功労として『瑞宝双光章』を受章された県内小中学校関係者の皆さん（敬称略）。

▼浅井富士雄（71）　名古屋市＝元名古屋市立冨士中学校長
▼天野博光（73）　春日井市＝元名古屋市立前津中学校長
▼加藤正俊（70）　豊橋市＝元豊橋市立松葉小学校長
▼神本政雄（70）　安城市＝元安城市立安城南部小学校長
▼柴田育郎（70）　豊田市＝元豊田市立下山中学校長
▼白井正康（70）　豊橋市＝元豊橋市立新川小学校長
▼竹本陽子（70）　豊川市＝元豊橋市立旭小学校長
▼松岡由里子（70）　犬山市＝元岩倉市立曽野小学校長
▼山田芳樹（70）　武豊町＝元常滑市立小鈴谷小学校長
▼吉川昭善（70）　愛西市＝元あま市立甚目寺小学校長
▼若山栄一（70）　東海市＝元東海市立横須賀小学校長

提言

確かな人材の確保と育成

愛知県教育委員会
教職員課担当課長
加藤　広也

「子どもと語る　笑顔が広がる　あいちの未来」

このキャッチフレーズのもと、本年度も愛知県教育委員会では、広い教養と豊かな専門的知識を備え、子供への愛情と教育への情熱・使命感をもった教員の愛情と教育への情熱・使命感をもった教員を募集しています。

昨今、教員志望者の減少や採用試験の倍率低下を危惧する声が聞かれ、人材の確保が課題となっています。一方、学校現場では、現在も多くの講師の方が、子供たちや保護者の信頼を得ながら、学校の貴重な戦力となって活躍しています。このような中、本県では、受験者の負担軽減を図るとともに、優秀な人材を確保するため、来年度（令和3年度）に実施する令和4年度採用愛知県公立学校教員採用選考試験から、選考方法を変更します。

主な変更点は、第1次試験を筆記試験（教科専門、教職・教養、小論文）のみとし（外国語堪能者は面接あり）、第2次試験を口述試験（一人の受験者に対し個人面接を2回実施）および実技試験（該当教科）としたことです。選考方法を変更しても人物重視の方針に変わりはありません。また、特別選考等については、種類により選考方法が変わります。詳細は、教職員課のウェブサイトで御確認ください。

本年度は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、長期にわたる臨時休業を経てのスタートとなりました。学校現場では、夏休みの短縮による授業時数の確保など、さまざまな教育活動の見直しの中で、より効果的な学習方法や行事の工夫等を模索してみえることと思います。その一方で、静かな教室に子供たちのにぎやかな声が戻り、子供たちと向き合って授業ができることの喜びや幸せを、深くかみしめてみえるのではないでしょうか。学びの大切さ、すばらしさを実感できる今こそ、教師の豊かな感性や人間性を存分に発揮し、子供たちに寄り添い、導いていくことができたらと思います。

依然として新型コロナウイルス感染症による教育活動への影響が危惧される中、皆で一丸となって乗り越えていくためには、明るく、協調性があり、粘り強さと行動力に富んだ人材が必要です。今後も子供たちの未来を担う確かな人材の確保に努めるとともに、学校現場と連携し、一層の人材育成を図っていきたいと考えております。

教師に必要な資質・能力は「教育に対する強い情熱」「教職に対する

「本物をめざす

業に就いたところで、自分のことだけしか考えていない人は評価され